

助成活動実績報告書

※「助成活動実績報告書」は必ずA4用紙2ページ(写真等参考資料添付を除く)に収めてください。

企画名	里山再生プロジェクト
団体名	あかいわ美土里の和

①活動の目的について

「赤磐市の自然環境を永続的に保持し、人と自然とが共存する循環型のまちづくり」を理念に生物多様性を維持する里山づくりをみんなで協力して活動することを目的とする。

②内容について(学習会、集会などは開催日や内容、参加者数など。設備・物品購入などの発注、納品、竣工、支払いなどの案件に関わる事実の掲載)

① 4月19日(日) ツツジ花見の会 雨天のため流会

② 5月11日(月)・16日(土) こどもと一緒に樹木の名前をおぼえましょう! (一般公募事業)

★11日(事前調査) 参加者22名(内子供14名)

講師2名と共に事前調査を実施。本番に参加できない地元のさくらが丘保育園園児14名と保育士2名が参加しました。講師の説明を聞いた後、木に名札を付けました。

★16日(本番) 参加者7名 朝8時まで雨の為参加者が少なかった。新たな名札を付けました。

③ 5月17日(日) 5月定例里山整備実施(会員事業) 参加者9名

今年度最初の下草刈りを磐山C登山口と観音山登山口周辺で実施しました。

④ 6月7日(日) 初夏の森林散策と野草でお茶づくり2015(一般公募事業) 参加者18名内子供4名

好評のイベントで野草集めから作り方指導までを実施、現地で天ぷらパーティーも実施しました。

⑤ 6月21日(日) パネルディスカッション「これからの里山を考える」(一般公募事業)

参加者30名 波田善夫先生の基調報告の後、里山の在り方を話し合いました。

⑥ 10月24日(土) 25日(日) 桜が丘いきいき交流センター第12回文化祭 参加者多数

15年度行事の活動報告を写真パネルで展示、ワークショップではドングリ遊び、リーフクラフト、リーフ押絵を実施。多くの市民に里山の意義と楽しさをアピールすることができました。

◎その他日常活動

★現地での一般公募事業実施の前に下草刈り、下枝処理等安全対策を実施。参加者平均6名/回

★毎月第3火曜日に定例会議を実施。参加者平均12名/回

◎当会の助成対象外活動

★県の助成対象活動として、6月以降毎月第3日曜日に定例里山整備を実施。内2回一般公募の整備を実施。多くの市民の参加を呼び掛けている。

★9月、森づくりサポートセンター助成による「草木染め体験教室」を実施した。

★11月29日、森づくりサポートセンター助成によるツリークライミングを実施した。

★12月20日、森づくりサポートセンター助成による「ホタルよみがえり作戦」実施した。

★2016年1月、地元町内会役員会主催「磐山で初日の出を見る会」に参加、協力。

③この活動によって達成された成果

※里山整備作業によって達成された成果

2016年5月で満5年を迎えます。5年間の活動により人と自然とが共存する環境が整備されつつあります。一昨年の「ホタルよみがえり作戦」と銘打った整備作業で昨年6月へイケボタルが乱舞する情景を目にすることができました。またスリットに夏至の夕日が沈む「陰陽巨石石組」や石仏を安置した座禅石など遺跡が見つかっています。市民から大いに歓迎されています。

◎整備作業により以下のイベント開催の成果があります。

※自然観察会によって達成された成果

5月の調査で樹木に名札を付け、登山道が自然観察道となり、散策に楽しみが増えています。また、へイケボタルとオニヤンマの幼虫を確認しました。6月には成虫を確認できました。改めて「生物多様性を維持する里山づくり」が実践されていることが確認できました。

※「磐山」でのワークショップによって達成された成果

①毎年続けている山野草を食するイベントを開催、「自然から恵みをいただく」という里山の原点を見直す活動の一つとして効果が上がっています。

② 里山整備で発生した残材を利用した「里山で学ぶ木工教室」や「草木染め体験教室」を通じ「里山の恵み」を楽しむようになっていきます。

◎以上のことから里山の意義が理念から現実的実用として益々広がっていると思われれます。

※パネルディスカッション「これからの里山を考える」で達成された成果

波田善夫岡山理科大学学長、伊藤国彦岡山県立大学名誉教授という自然科学の重鎮から里山の在り方を示唆していただいた。友実赤磐市長も参加して里山の価値が話し合われました。その結果、波田善夫先生を会長とした「赤磐市野生動植物調査会」が発足するという成果がありました。

※赤磐市桜が丘いきいき交流センター文化祭参加によって達成された成果

3度目の参加で、リピーターが多くあり活動アピールに効果がありました。

④今後の計画・展望について

※今後の計画

できるだけ継続性を持たせ、その中で新しい息吹を吹き込んでいく。具体的には

① 一般公募による年2回の里山整備作業の継続②会員による月1回（第3日曜日）の里山整備作業③一般公募による年2回以上の自然観察会の継続④磐山でのワークショップ及び展示会場・シンポジウムの継続開催④町内会や他団体との交流を深める。

※展望について

①市長からあかいわ美土里の和に対し、赤磐市の植物調査の依頼がありましたが、私達には荷が重すぎ各方面に相談して「赤磐市野生動植物調査」が発足した経過があります。このように活動が信頼されていると思われるので、活動に広がりを持たすことができると思われます。

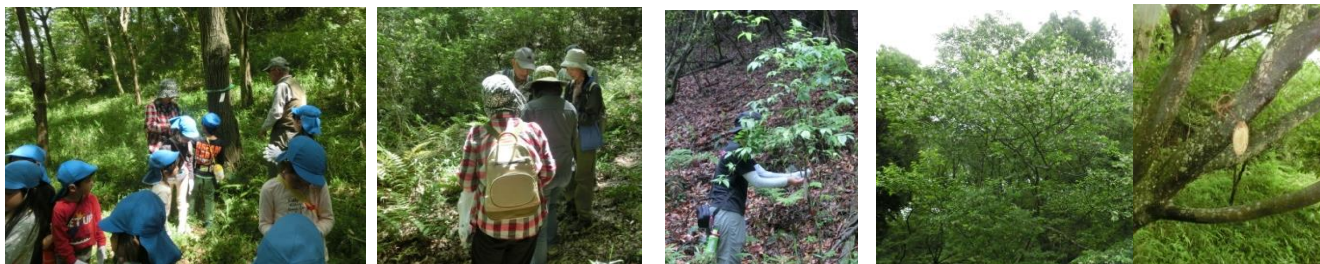
② 地域との連携が拡大しています。

③ ホームページの閲覧件数も順調に伸びており、ホームページを見て市外からイベントに参加する人がいます。遠くは東京から参加した女性がありました。

◎このように地域住民が森林に親しみ、里山を大切に守る機運が高まりつつあります。特に子どもとその若いファミリーと保育士の参加で若返り、将来の展望が明るいと思っています。

⑤ 写真等参考資料添付（事業により購入した設備・物品等や会議開催の様子など、活動内容が伝わる写真等を添付してください。デジタルカメラの場合、データもご提出（メール送信）ください。）

① 子どもと一緒に樹木の名前をおぼえましょう！ 5月11日（月）事前調査 5月16日（土）本番



11日 樹木について説明を受ける参加者たち

16日 名札付け風景 エゴノキと名札

② 5月定例里山整備 5月17日（日）



磐山C登山口周辺 作業前 作業後

観音山登山口周辺 作業前 作業後

③ 初夏の森林散策と野草でお茶づくり2015 6月7日（日）



散策と野草集め 野草天ぷらパーティー風景 野草でお茶作り風景 皆で試飲会

④ パネルディスカッション「これからの里山を考える」 6月21日（日）



波田善夫岡山理科大学学長の基調報告とパネルディスカッション風景 山陽新聞記事

⑤ 赤磐市桜が丘いきいき交流センター文化祭 10月24日（土）・25日（日）



活動展示会場風景 リーフクラフトに挑戦 親子でドングリ遊び ドングリ遊び完成品